

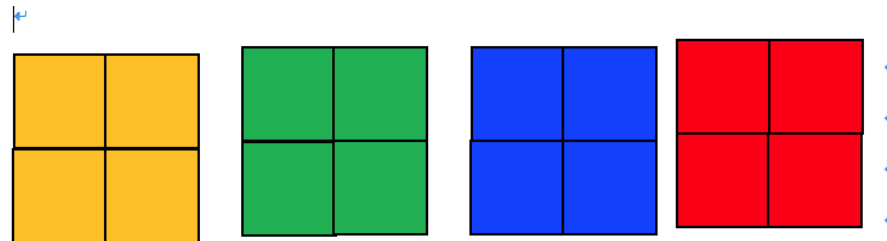
プロジェクト名	ドイツ語圏の美術館の芸術作品を1つ取り上げたジグゾー方式のプレゼンテーション
タイプとレベル	「リーディングと語彙」 A2～B1、 「ライティングと文法」 A2
期間	授業の後半 45 分を 2 回と宿題+ジグゾー方式のプレゼンテーション (クイズによる絵とテキストのカップリング)
対象者	週 2 回 1 年間ドイツ語を学習する大学 1 年生 (後期の後半に実施)
計画案 <small>(課題、目的、学習対象、 利用可能なツール、技術的 な前提、進行プラン例)</small>	<p>課題 : x 人からなる x 個のグループ を作る。それぞれが個人作業で、インターネット上の美術館のサイトから、自分の気に入った絵の画像を探し、選んだ絵について記述したカードを作る。そのカードには、絵についての描写と感想を書く。また、その絵の画像自体も A4 六つ切りサイズで印刷する。x 人からなる x グループで一人ずつ動いていきながらじぶんのグループについて説明するジグゾー方式 (Wirbelgruppenmethode) を用い、で、6 個のシャッフルしたテキストのどれがどの絵に対応する説明文かをクイズ形式で当てさせていく。また、最後にそれぞれの絵に対する感想も聞く。</p> <p>目的 : 1) ドイツ語のテキストを読んでその内容を理解する (A2～B1 レベルの reading)、2) 美的な対象から得られる (視覚的な) 情報をドイツ語で記述する (A2 レベルの writing)。3) 主観的な価値判断を述べる</p> <p>利用可能なツール :</p> <p>学生 : Google、Online-Datenbank der Sammlungen (Staatliche Museen zu Berlin)、18 Museen, 25.000 Kunstwerke, (eine Sammlung)、Hamburgischer Kunsthalle (Sammlung Online)、Kunsthistorisches Museum Wien (Online Sammlung)等の各美術館のオンラインイオレクション紹介のページ、Wikipedia、Glosbe・Reverso Dictionary などのオンライン辞書各種、Word 等。</p> <p>技術的な前提 CALL 教室等ができれば望ましいが、最低限、教員用 PC が 1 台ネットに接続でき、その画面を提示できれば良い。</p> <p>プロジェクト進行プラン (ここでの説明は、1 クラス 36 人の場合)</p> <p>① 準備 : 1) あらかじめ、既習の形容詞を物理的な記述の形容詞と主観的な価値判断を表す形容詞に分類し、それぞれに関してどんな物を知っているか確認し、板書していく。物理的な形容詞を使って目の前にある対象を記述する。主観的な価値判断を表す形容詞を使って様々な対象に対する評価を言わせる。あるいは、それぞれの形容詞を挙げて、Was ist alt? / Wer ist hübsch? 等の形でドイツ語の具体物 (人間を含む) の名前を挙げさせ、名詞と形容詞を結びつける練習をする。そ</p>

	<p>の際、sein 動詞だけでなく、「finden + 4 格 + 価値判断の形容詞」を組み合わせた主観的な価値判断の表現の仕方も復習ないしは新規導入する。</p> <p>① 第1回～第2回：36人が6人ずつの6グループに分かれる。各グループでそれぞれドイツ語圏の美術館（MünchenのPinakothekやHaburger KunsthalleやKunsthistorisches Museum Wien等）のオンラインコレクションのページから自分たちの気に入った作品を全部で6枚選び、当該の作品の画像をダウンロードして1～6まで番号を打ち、A41枚に収まるようにWord等に貼り付ける。</p> <p>② 6人がそれぞれ1つずつ分担する形で、その作品がどのようなものであるかを100～150語程度のドイツ語で記述する。最後に、この作品に対する感想、あるいはなぜこれを選んだかを、findenを使った主観的な価値判断の表現も含めて一言書かせる。書いたものをA4四つ切りサイズの少し厚めの紙に写す。これにより、グループごとに6枚の絵と一緒に印刷されたA4の紙と、その各々の絵を説明する6枚の説明カードができる。ここまでの作業は、できなかつたら宿題。</p> <p>③ ジグゾー方式のプレゼンテーション：前回と同じグループで集まり、6枚の絵が印刷されたA4の紙とその各々の絵を説明する6枚の説明カードとをグループの前に置く。次に各グループの6人が順番にI～VIまで番号をかけ、各グループ1～6内の各人が新たにそれぞれI～VIの番号を持つようにし、各グループから、それぞれI～VIの番号ごとに集まる形でグループを再構成し、新たな6つのグループI～VIを作る。このグループが、10分ごとに、それぞれの絵と説明のカードのある場所を移動していく。その際、どのグループにも当該カードと一緒に作った人が必ずひとり含まれることになるので、その人がクイズマスターとなって、カードを読み上げ、それがどの絵なのかを当てるクイズを出す。そのあとは、お互いに感想を言い合う。なお時間制限は10分とし、10分ごとに各グループ（I～VI）は、1つずつ時計回りにずれながら1～6箇所を回っていく。すべて回ったところで終了。</p>
ポイント	<p>1) 最初に本プロジェクトの課題と期日を明示しておく。</p> <p>2) ジグゾー方式のプレゼンテーションについては、最初に図を使った説明をしておく。</p>

Wirbelgruppenmethode ジグソー方式 (4人ずつで4つのグループを作る場合の例)

なお、この方式が採れるグループの数は、 4^2 、 5^2 、 6^2 、等の二乗数が基本だが、それより少し多い場合も、2人で一つの単位を作らせるなどの形で対応できる。

Gruppen bei der Arbeit



Gruppen bei der Präsentationen

